

会報 はるかな友

100年の絆

第22号 日本とアルゼンチン

1998.10.13 発行 いま新しい時代へ

1898-1998



Japón
Argentina

100 Años de Amistad



修好100周年

特集：ブエノスアイレス午前9時30分

- | | |
|----------------------------------|----|
| 1 カサ・ロサーダで盛大な修好100周年記念式典 | 2 |
| 2 ブエノスアイレスの奇蹟 | 3 |
| 百周年祭 アルゼンチン・フィエスタへのご案内 | 4 |
| 現地速報：アルゼンチンの政治と経済 | 5 |
| 特別記事：素顔のピアソラ（1） | 7 |
| 「ピアソラは私に言った。MUSICAと呼んでくれればいいんだ」 | |
| シリーズ：博物学者、文学作家ウイリアムス・ハドソンと日本との関係 | 8 |
| ——ハドソン家とシンヤ家——（最終回） | |
| 新曲CD：大使夫人の名演奏「アルゼンチン・ピアノ名曲集」 | 10 |
| 訪ア感想：絵画コンクールに優勝した関真理奈ちゃん（長田小学校） | 11 |
| 現地だより | 12 |
| 文化行事 | 13 |
| お知らせ | 15 |
| 人事往来 | 18 |



祝100周年記念式典 P2



観戦記、ついに… P16

社団法人 日本アルゼンチン協会

発行人 野村秀治 編集人 渡部 透

〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-2-2 日比谷ダイビル

電話 (3501) 4684 FAX (3595) 3932

<http://www.pinos.co.jp/country/j-arugel.htm>

特集：ブエノスアイレス午前9時30分

1 カサ・ロサーダで盛大な修好100周年式典

カサ・ロサーダ（大統領府）の正面から廊下に整列した儀仗兵はまぶしかった。

式典会場のサロン・ブランコは白い壁に金の縁取りに蔽われた装飾、大鏡のドアはシャンデリアに輝く。

1998年9月29日午前9時30分、メネム大統領と秋篠宮、同妃殿下は、近衛兵騎馬軍楽隊が奏でる音楽とともに入場。約200名の両国代表団に迎えられる。軍楽隊の吹奏で両国国家の齊唱。オペラの序曲のように長いアルゼンチン国歌は向かって右側のアルゼンチン代表団一同が歌う。ついで吹奏された「君が代」には日本側の声殆どなし。

アルチュロン・アルゼンチン側代表と諸橋・日本側委員長の挨拶について、アルゼンチンの切手の贈呈式、秋篠宮両殿下へのサン・マルティン勲章の叙勲式がつづく。

通訳はなく、予め配布されたテキストにそって式は流れるようにすすめられる。

最後に秋篠宮殿下のお言葉、メネム大統領の挨拶、ともに過ぎし百年の友好の足跡を振り返り、この式典が新たな百年の出発点になることを確めあった。

式典は40分間、司会の沈黙したバスの声とともに、まことに垢抜けた演出。式後、シャンデリアのもとで両国代表団のそれぞれが入り交じり、互いに祝賀の言葉を交わしつつ抱擁したり、握手をする。この余韻のひとときを用意する心憎い配慮に感動しながら、廊下に整列する儀仗兵に見守られて、つぎの会場へむかった。

バスで着いたアルビアール・パレス・ホテルの廊下にも、赤絨毯両サイドに近衛儀仗兵が整列して一行を迎えてくれた。「ベルサイユの間」での大統領主催の午餐会はシャンパンの乾杯で始まった。オードブルのあと最高級のフィレ肉料理、ワインはアルゼンチン自慢の94年特選ナバロ・コレアス。BGMは大統領の特別の計らいで、本場のタンゴ楽団の演奏。ホテルの紋章がついた金縁の食器はすべて、アルゼンチンで戦前から活躍する日系企業、辻陶器の製品。同席した辻武一郎ご夫妻の顔がほころぶ。

どのテーブルも会話の花が咲く。どうみてもこの国には、アジア人とくに日本人への差別的雰囲気がない。こうした政財界の大物が出席するハイレベルの午餐会では、他の中南米諸国とくに北米、欧州にまま見受けられる差別的なもののカケラもない。国境をこえた本当の友好の空気が辺りいっぱいに拡がる。

午後4時からパレルモ公園のなかの日本庭園で、殿下夫妻を迎えて桜苗木植樹式、6時30分から木島大使公邸で内外の招待客450名を招いて盛大なガーデン・パーティ。

午後9時30分、ブエノスアイレスの夜は、これから始まろうとしていた。

2 ブエノスアイレスの奇蹟

70年代、躍進する日本経済を世界は「日本の奇蹟」と呼んだ。80年代にはお隣、韓国に「漢江の奇蹟」が生まれた。そしていまは「ブエノスアイレスの奇蹟」が進行している。

実際にサンマルティン広場からカサ・ロサーダ（大統領府）まで歩くと、別世界に迷い込んだ錯覚にとらわれる。ちょうど東京で、新橋から、「ゆりかもめ」に乗って天王洲に舞い下りた、あの感覚だ。近代建築ビルが立ち並び、人々は足早に走り抜けていく。

かつてレティロからカサ・ロサーダあたり、さらに西へのびるラプラタ河に面した地区は欧州式の掘り割りの港が続いた。その周辺は古いレンガ造りの倉庫群だった。夜は税関吏と野良犬しかおらず、昼でも誰一人寄りつかなかった。それが見事に変身している。

ペルト・マデーロー昔といっても7／8年まえまでは薄汚い危険区域であったが、いまや道路は整備されレンガの倉庫は美しく改装され、一流のレストランが並び、街灯とネオンで不夜城となっている。

ホテルのすすめで「カバニャ・ラス・リラス」へ行く。内装は倉庫の味を生かしながら粋なレストランとなり、一流のアルゼンチン肉料理がいただける。ワイン、オードブル、食べきれないほどの肉料理、デザート、コーヒーで一人前5～6,000円程度。外は昔の野良犬に代わって、多くの二人づれが散策し、車やタクシーが行き交う。

ダルセナと呼ばれた堀割の港は港湾労働者の巣窟で、それなりに騒音と倦怠の世界が渦巻いていたが、いまはスマートなマリーナとなり数々のヨットやクルーザーが係留されている。

付近は近代的な高層ビルが立ち並び、昔からの建物はそれらの間で息づいている。第19回日亜経済合同会議が開催されたシェラトン・ホテルもこの港湾地区にある。ホテルのなかはニューヨーク、東京に見られるものと全く同じで、表示がスペイン語である点を除けば何の特徴もない。しかし再開発の堂々たるシンボルとなっている。

ブエノスアイレスは数年前までは、停滞した老大都市だった。メヌム政権の見事な舵取りで規制緩和、徹底した民営化をすすめ通貨危機の問題をはらみつつも活力を取りもどしている。

それは1日の時間にすれば、長い夜中から抜け出して、いまは、午前9時30分の光の中にいる。



再生したペルト・マデーロ地区

百周年祭 アルゼンチン・フィエスタへのご案内

日 時： 10月21日（水）～ 25日（日） 10:00～17:00

会 場：池袋サンシャイン ワールドインポートマート 7F（M2、M3）

M2：日ア修好100周年記念事業関連パネル、サッカーW杯、観光写真展、アルゼンチン物産展（ワインのPR、即売）、CD、書籍（日本海戦－アルゼンチン観戦武官の記録）等、ビデオ等の販売

M3 * 「アルゼンチン音楽への旅」（タンゴ、フォルクローレ演奏出演者）

（12:15と15:00 2回公演）

10月21日（水）岡本昭とタンゴグループ（演奏）、シンゴとアスカ（ダンス）、
パジャドールタロ、小原みなみ（歌）

10月22日（木）池田光夫そして若者たち（演奏）、清水百合とジョルジュ高橋（歌
とダンス）ほか

10月23日（金）マリアとマルティン・ミゲル（ダンス）、デュエット・エスペラ
ンサ（アルパ他）

10月24日（土）チャランゴの名手草薙雅介とグルーポマイヤによるフォルク
ローレほか

10月25日（日）オルケスタ・チェ・タンゴ（演奏）、黒猫座（ダンス）ほか
(ご来場の皆様が踊れるスペースも用意しております)

その外アルゼンチン映像上映、セミナー等

入場料：無料（商品お買い上げの方の福引き抽選があり、賞品として①成田－ブエノスアイレス往復航空券（アルゼンチン航空及びイベリア航空寄贈）、②商船三井の客船提供の洋上クルーズ「タンゴで踊り明かそう」のペア2組招待（P17参照）、③ワイン、スポーツシューズ、記念ボールペン等。24日（土）11:00 地下1階の噴水広場で長田小学校生徒によるタンゴ・カミニートの齊唱）

交 通：J R山手線・埼京線、東武東上線、地下鉄丸の内線〈池袋駅〉（徒步8分）
地下鉄有楽町線〈東池袋駅下車〉（徒步5分）

主 催：アルゼンチン・フィエスタ実行委員会（株）日本アルゼンチン協会、産経新聞
社、ロスピノスIIアジア（株）

後 援：アルゼンチン大使館、外務省、JETRO、日ア修好100周年記念事業委員会

連絡先：03-5425-7515 アルゼンチン・フィエスタ事務局

（事務局長 木田洋二 ロスピノスIIアジア（株）プロデューサー）

アルゼンチン政治・経済動向速報

小林 晋一郎

- メネム大統領は7月22日、99年の次期大統領選に出馬しないと宣言した。与党ペロン党の中にはメネムの3選を画策する動きがあり、他方メネムも再選に意欲を示していた。現憲法では連続再選までしか認めていないので憲法改正の必要があることから、政敵のデュアルデ・ブエノスアイレス州知事はメネム3選で州民の民意を問う投票を行なうとまで言っていた。メネムの出馬断念でペロン党内の最大の緊張は消滅、党内の対立候補として元ツクマン州知事のオルテガ社会開発庁長官がいるも、デュアルデが99年4月の党内選挙で大統領候補に選出される可能性が高まった。

メネムは大統領職の激務で家庭は破壊され、息子を失い、これからは残されている娘のために生きたい、カバロ前経済大臣の不誠実と裏切りで疲労した、弁護士として働くとしても政治の世界とは繋がりを持ち続け2003年の大統領選挙に出馬する可能性を示唆する発言をした。

- 28億ドルのIMF拡大信用供与時に課せられた98年1~6月の条件達成状況調査のために、IMFのミッションがブエノスアイレスを訪問していた。主要な項目の達成状況は次の通りで、一部未達があったがIMFからは特段のコメントはなく経済政策の変更を迫られることにはならなかった。(カッコ内は条件)
 - 財政赤字—達成、16億ペソ(18億ペソ)
 - 貿易赤字—未達、54億ドル(12カ月ベースで50億ドル)
 - 税制改革—達成、(6月までに法案を議会に提出)
 - 労働法改革—未達、(6月までに議会で法案の可決)

- 98年5月の失業率は昨年10月の13.7%を0.5%下回る13.2%となった。

- 9月、労働組合と産業界の対立から難航していた労働法改正案が国会で可決された。この改正は妥協の産物でアルゼンチン・コストの根源とも言われる包括労働契約の根幹にまでメスを入れたものではない。注目される内容は次の通り。
 - 試用期間が現行の90日から30日に短縮
 - 試用期間は180日まで延長可能だが、試用期間が延長された場合は付帯メリットを雇用者負担とし、規定の50%の解雇金支払い義務がある。

- ロシア金融経済危機に端を発する世界的株安はブエノスアイレス証券市場を直撃、株価大幅続落で市場はパニック状態となった。株価指数MERVALは9月1日の390から9月10日は年初来最安値の302となった。アルゼンチン・ブレイディ債も株価同様年初来最安値を記録した。銀行間金利の上昇、銀行の貸し出し抑制に続き、ブラジル向け輸出減少懸念から自動車組立工場では設備投資の一次凍結、人員の一時解雇など実体経済への影響が顕現している。
- ロシア金融危機でジョージ・ソロスが為替切り下げと通貨制度としてロシアでのカレンシーボード導入の提案をフィナンシャル・タイムズ紙に寄稿したことから、アルゼンチンカレンシーボード制が一躍、注目を浴び、この制度導入と経済安定化に成功した立役者カバロ前経済大臣はロシア政府の招きで8月31日からモスクワを訪問、政府関係者にアルゼンチンの経験を説明した。
- 急進党とフレパソの野党連合は8月、政権担当を視野に入れ政策の基本方針を「アルゼンチンへの書簡」で発表、経済政策面では安定を最重要視すること、具体的には現在の兌換法の継続、経済開放と法的安定を挙げている。
- 年初、経済過熱を懸念したIMFとの間で議論されていた高速道路整備計画（提案した議員の名前をとってラウラ・プランと呼ばれている）の中止をメヌム大統領が発表した。
- ガダニ商工庁長官はアジア通貨危機の影響下にあるアルゼンチンの輸出見通しで次の通りの発言をしている。

98年の輸出数量は世界経済の状況が良好であった94－97年と同じ伸びの10－12%となろう。98年1－3月は前年同期比で10%の輸出数量の伸びであった。今年の全世界輸出数量の伸び見込みは6%である。輸出価格下落の状況下で98年の輸出額は270億ドルとなろう。アルゼンチン工業製品の輸出競争力は設備の近代化、コストの削減と品質の向上によっている。

(東銀リサーチ・インターナショナル 研究理事)

素顔のピアソラ (1)

「ピアソラは言った。Musicaと呼んでくれればいいんだ」

河 崎 勲

1970年のブエノスアイレス。現代タンゴをめぐる論争は盛んであった。ピアソラは、渦中にいた。「ピアソラは、タンゴではない」「いやあれこそ今の時代のタンゴだ」。インテリの学者ビオレタ・シンヤ女史は、反対派だった。「わたしは嫌いよ。あんなのタンゴじゃないわ」。論争は果てしなかった。私は決心した。現代タンゴをめぐる動きをテレビで日本に伝えよう。日本では、まるで知られていない。ジャーナリストとしては、看過ごすことのできないテーマであった。

グラシエラ・スサーナの当時の夫君フォンタン氏に、ピアソラ取材を持ちかけた。彼は、すっ飛んで行き、OKの返事を持って帰ってきた。「ピアソラは、今新しい曲を作っていますよ」。それだ！

ピアソラは、リベルタドール通りのデパルタメントに住んでいた。さして広くもなく、ゴージャスでもないリビングのアップライトのピアノの前で、ピアソラは、ぽろんぽろんと音を確かめつつ、譜面に書き込んでいた。傍でライトが照り、カメラが音を立てて回り始めても、いやな顔もしないでポロンポロンとやっていた。額が上がったずんぐりタイプで、気さくな普通のおじさんという感じである。陽に当たらない生活のせいか、やや蒼白いものの、容貌には、知的なムードを漂わせている。バンドネオンの名手というけれど、指の太い人だなど、私は、妙なことを気にしていた。

「それじゃ次の日時は電話で打ち合わせましょう」「いいよ。だけど、午前中の電話はだめだよ。君にもらったスントリー（サントリーウイスキー）を飲んで寝てるからね」。ピアソラは、ドアのところまで送ってきて、「午前中は電話しないでよ」と再度訴えた。

ピアソラは、「ビシクレタ・ブランカ（白い自転車）」を作曲していた。

—「そうすると、あなたのタンゴは、伝統的タンゴの否定から出発する訳ですか」
—「そうじゃない。伝統タンゴは、踊るためのタンゴだ。踊りの好きな人はそれで踊ればよい。僕は、それを否定しない。」

「しかし、若い世代の人達は、古いタンゴに飽き足りなくなっている。」

「彼等が求めているのは、踊りのタンゴではなくて、音楽としてのタンゴなんだよ」

やり取りが少し理論的なところへはいって行くと、ピアソラは、「それはオラシオに訊いてくれないか。オラシオ、オラシオ」と逃げ出すのであった。

ても人の好い青年で、現代タンゴを説明するためにわが支局をわざわざ訪ねてきてくれたりした。オラシオの目標は、ピアソラと組んでタンゴをさらに芸術性の高い音楽に育てるにあり、そのためには、ピアソラ以外の作曲家には詩を書かないとまで決めていた。(続)

(当協会理事、元NHK プエノスアイレス支局長)

博物学者・文学作家ウイリアム・ハドソンと日本との関係 —ハドソン家とシンヤ家—（最終回）

佐 藤 幸 正

4 結 語

ハドソンと日本との関係を、彼の妹の子孫を通じて述べてきたのであるが、最後にその関係は現在どのようにになっているのか見てみよう。それはハドソンの生家と無縁ではない。1991年5月10日付の『日本経済新聞』「文化欄」で、当時の駐アルゼンチン大使藤本芳男（当協会副会長）は、この生家のことを「キルメス郡のフロレシア・パレーラという村で、広い草原の、森に囲まれた一角に生家があり、今は博物館になっている」と伝えている。“プエノス・アイレス市の南東50キロばかりの所にあるこの生家は、長年放置されていたため、廃家同然となっていた。それを修復し、ハドソン記念館にしたいと考えたのは、元アルゼンチン大使津田正夫（故人）であった。彼は時のアルゼンチン政府と交渉し、生家を記念館にするため、奔走したのである。彼が描いた記念館のあるべき姿は、先ずその周囲に、ハドソンの著書に出てくる草や木を植えることであった。次にその記念館に、「ラ・プラタ博物館にハドソンの鳥として百いくつの剥製がある」のを移すことであり、更にはハドソンの手紙や写真、各国語に翻訳された本を陳列することであった。”現在館内で見られる訳本などの陳列品は、彼のこのような構想に基づいているのである。津田正夫はまた、時の内務大臣から館長を誰にするかについて考えを聞かれた時、当時プエノス・アイレスの大学で教鞭をとっていたヴィオレッタ・シンヤを推薦している。彼のこの行為が実り、後日彼女はハドソン博物館館長に任命される。ハドソンの生家は立派に修復され、「しかもその建物は州立博物館になった」のである。

この州立博物館の周辺はその後環境保護地区に指定されたことを、紙上で藤本芳男が伝えている。即ち、「博物館を真ん中にしたほぼ300ヘクタールは環境保護地区に指定されている。もともと、ハドソンの両親が北米から移住してきて買った土地は、ちょうどこの一帯400ヘクタールだったというから、今の環境保護地区はほぼ昔のハドソン家の所有地だったわけだ」と。彼は更に、「大草原を愛した詩人」と題したこの記

事の文末で、篤志家に次のように呼びかけた。

ヴィオレッタ・シンヤ女史もすでに80歳を超えていた。いまだ元気で博物館長（現在名誉館長）の仕事をこなしているが、頭が痛いのが予算不足。とくに博物館の敷地とその南にある8ヘクタールの自然林とを結ぶ短冊型の土地が、のどから手が出る位に欲しいのだが……という。鳥のいる自然林に直接行けるようにするためだ。ハドソン生誕150周年記念に、篤志あるハドソニアが現れないものかと、ヴィオレッタ女史は遠慮がちに語っている。

この呼びかけに応じたのは「公益信託サントリー世界愛鳥基金」であるが、上記の新聞を読み、この間の橋渡しを果たしたのはハドソン友の会駐日代表の寿岳和子（当協会員）であった。『はるかな国とほい昔』の翻訳者寿岳しづは、彼女の義母にあたり、寿岳家はハドソンと浅からぬ縁がある。1992年5月13日付の『読売新聞』夕刊は、「ハドソンの生家保全へ助成」という見出しで、次のように報じている。

ウイリアム・ヘンリー・ハドソン（1891～1922）の生家一帯をサンクチュアリとして保全するため、「公益信託サントリー世界愛鳥基金」は今後3年間に分けて約2,000万円を助成することになった。……今年度分の助成は600万円。この資金で生家周辺の土地の買収・保全と鳥類保護のための施設、観察用展望台などの設置が進められている。将来は300ヘクタールをサンクチュアリとして確保、保護していく計画だ。

翌1993年5月11日、サントリー小ホールで開催された「サントリー世界愛鳥基金」第4回助成金贈呈式には、ヴィオレッタ・シンヤ自ら出席した。助成を受けるために招待されたもので、この時彼女は「ヘンリーハドソン記念博物館」の名誉館長であった。現地ブエノス・アイレスには1965年設立の公益団体「環境文化公園キジェルモ・エンリケ・ハドソン友の会」が所在する。この団体は「原産鳥類及びその棲息地の保護」を目的とし、「環境文化公園キジェルモ・エンリケ・ハドソン（ヘンリー・ハドソンの生家・周辺の原産鳥類保存地区及び自然保護区を統括する州立機関）における鳥類保護活動の支援」をしている。この時の日本訪問が、3回目の日本との出会いとして、『講演』のなかで語られることになるのである。このように、日本とハドソンとの関係は、シンヤの人達を通して、今日ますます深く太い絆になっているのである。（完）

（弘前学院大学教授）

新曲CD：大使夫人の名演奏「アルゼンチン・ピアノ名曲集」

志 村 四 郎



「タンゴやミロンガの名曲が生れる土壌に、クラシック・ピアノの名曲が生れない筈はない」——長い間の疑問に、このたびポリー・フェルマンが見事に答えをだしてくれた。

『アルゼンチン・ピアノ名曲集』全27曲のCDが、アメリカで制作され発売された。

ラテン・アメリカ最大のミュージック・センターといわれるブエノスアイレスは、名ピアニスト、A. ルビンシュタインによれば、「極めてピアノ的な街」だそうだ。そこから多くの作曲家を輩出し、欧米では名声を博しているものの、わが国には縁遠い存在であった。

アルベルト・ウイリアムス、フリアン・アギーレ、カルロス・ブチャルド、ファン・ホセ・ラモスのほか面白いことに、タンゴの作曲と演奏で有名なアニバル・トロイロの、そして若い頃トロイロの楽団でバンドネオンを弾いていた鬼才、アストル・ピアソラのピアノ曲が著名。圧巻は何といってもアルベルト・ヒナステーラで、アルゼンチンの魂と土埃が匂ってくる。

P. フェルマンはサンチス・ムニョス、アルゼンチン大使夫人で、ウルグアイに生れ、3才からピアノを始め、モンテヴィデオ、ブエノスアイレスで勉強、さらに欧米で研鑽を重ねた世界的なピアニスト。各地のオーケストラと競演し、「相応しい大喝采（ロンドン・ミュージカル・オピニオン）」「音楽的魅力と優雅さ（ニューヨーク・タイムズ）」「華麗なるテクニック（ワシントン・ポスト）」と絶賛を浴びている。日本では、上野文化会館、サントリーホールなどのリサイタルのほか、各地の老人ホームや障害者施設を精力的に廻り、チャリティー・コンサートの奉仕を続けている。

クラシック・ファンはもとよりタンゴ・ファンにもお薦めの名演奏。ブエノスアイレスの空気と香りが伝わってくる。（評論家）

Argentine Piano Music／Polly Ferman

輸入／発売：株東京エムプラス ☎ 03-5976-5991

価格：2,600円（税別）直輸入盤、日本語解説付 商品番号／MCMW1293

訪ア感想：絵画コンクールに優勝した関真理奈ちゃん

在日アルゼンチン大使館が日ア修好100周年記念絵画コンクールを実施した処、長田小学校（茨城県猿島郡境町）の関真理奈嬢が優勝（会報第19号参照）し、サンチス大使より副賞としてブエノス往復航空券（アルゼンチン航空及びイベリア航空の寄贈）を受賞した。同嬢は8月18日より6泊7日の日程で訪アし、日亞学院表敬、市内観光などを楽しみ、その時の感想を次の通り寄稿してくれました。

アルゼンチンに行ったこと

長田小 3年 関 真理奈

わたしは、夏休みにお母さんとアルゼンチンに行きました。ひこうきで30時間もかかりました。ブエノスアイレスというところへつきました。そして日亞学院に行きました。長田小のみんなのかいた絵がかざってあったので、おどろきました。食どうへいったら、わたしの絵もありました。とてもうれしかったです。それからいろいろな



教室を見てあるいてさいごの3年生の教室にいきました。しつもんをされました。「どんな食べものすきですか。」「犬はすきですか。」とか日本のことばできかれました。日亞学院では、午前中はスペイン語で、午後からは、日本語で勉強をするそうです。二つのことばで話すのはすごいと思いました。いっしょにあまいパンとココアでおやつを食べました。アルゼンチンの人たちはあまいものがすきだそうです。そのあとみんなで記ねんさつえいをして、帰るとき「またあえるといいね。」といいました。

イグアスのたきも見ました。また、動物園へも行きました。アルゼンチンは、とても遠い国だったけど楽しい思い出がたくさんできました。

現 地 だ よ り

◎ア国タンゴ学校—各種コース開設

「カルロス・ガルデル」の名を冠したア国タンゴ学校 (ESUCUELA DE TANGO ARGENTINO) が、3月、市内YATAI 129番（日亜学院の近く）に開校し、各種コースが次の通り開設されている。

発声法：月曜と水曜 14:00～21:00 (ラウル・カルダ教授)
火曜と木曜 14:00～21:00 (イルマ・モレーノ教授)
タンゴダンス：火曜と木曜 19:00～21:00 (ドーラとリカルド教授)
レパートリー（演奏曲目）：月曜と水曜 14:00～21:00 (ラウル・カルダ教授)
ギター：月曜から金曜 20:00～22:00 (ハビエル・ペーレス教授)
児童向けギター：金曜 14:00～18:00 (ティニイ・ペル教授)
ちなみに、同校校長はラウル・アンヘル・ビジャ、コーディネーターはエルバ・クリスチャンとラファエル・バスティアーニ
(らぶらた報知紙より)

◎国際空港（エセイサ）及び国内空港（エロバルケ）使用税 (TASA DE AEROPUERTO) の値上げ

国内線 10 ドル、モンテビデオ線 13.50 ドル、国際線（モンテビデオ線を除く）
23.50 ドル（いずれも片道）

(玉那覇旅行社より)

事務局からのお願い

「個人正会員および個人賛助会員」募集

個人会員制度の概要は次のとおりです。

- | | |
|--|--------------|
| ①☆正会員（定款上総会の構成員。議決権あり） | 年会費 ¥ 10,000 |
| ☆賛助会員（定款上総会には非構成員。議決権なし。
その他は原則として正会員に準ずる） | 年会費 ¥ 5,000 |
| ②会報：当協会の発行する「会報」を年4回お届け（無料）することにより、日ア間の最新情報を政治、経済、文化などに亘って提供します。 | |
| ③文化活動ないし演奏会などの催物のご案内、割引案内を行い、ご希望の分野にご参加（実費徴集）いただきます。 | |
| ④定例総会のほか「親睦会」を開催し会員相互および在京大使館との交流を計ります。 | |
| アルゼンチンに関心の深いご友人、関係先の方々を、是非ともご勧誘ください。
事務局にご一報あれば加入申込書を、ご本人あて郵送いたします。 | |
| ⑤郵便局振込口座 00120-6-581381 | ⑥住友銀行 日比谷支店 |
| 普通 215-99570 | |

文 化 行 事

【□】は当協会員特別割引

◎カルメン・パジェステル・レモラル作品展「眺める」(スペインの焼き物)

日 時：10月7日（水）～11月7日（土）10：00～20：00
(土曜16：00まで、日・祭日休み)

会 場：東西文化センター1階ホール

入場料：無料 交通：門前仲町駅下車3番出口徒歩1分

主 催：(有)イスパニカ 代表取締役 井 戸 光 子 (当協会員)

TEL 3630-9711、FAX 3630-9717

□アルゼンチン映画祭

日 時：10月26日（月）～28日（水）

会 場：徳間ホール（港区東新橋1-1-16、徳間書店3F）

入場料：無料（定員160名）

交 通：JR、地下鉄銀座線 新橋駅下車 徒歩4分（ヤクルト本社の先）

上映作品：3本 AL CORAZON (1997、92分、監督 MARIO SABATO)

EL SUEÑO DE LOS HEROES (1996、100分、監督 SERGIO RENAN)

EL IMPOSTOR (1996、99分、監督 ALEJANDRO MACI)

13：00

15：30

19：00

26日（月）ペテン師 トゥー・ザ・ハート

27日（火）英雄たちの夢 ペテン師 トゥー・ザ・ハート

28日（水）トゥー・ザ・ハート 英雄たちの夢 ペテン師 (18:00～19:00迄
野谷文昭氏（立教大学教授）と四方田犬彦氏による講演会
終了後19:10から上映)

主 催：アルゼンチン共和国大使館

後 援：アテネ・フランセ、日ア修好100周年記念事業委員会

□競馬「アルゼンチン共和国杯」

日 時：11月7日（土）15：35

会 場：府中競馬場

主 催：日本中央競馬会 03-3591-5251

(10:00～16:00 アルゼンチン・ワイン輸入業者による試飲、即売会予定)

□情熱のTANGOとやすらぎの日本の抒情歌—小原みなみ

日 時：11月10日（火）19：00開演

会 場：みなとみらいホール（045-682-2020）

出 演：歌 小原みなみ、演奏 岡本昭とタンギシモ

入場料：前売5,000円（自由席）【□ 4,500円】

交 通：JR京浜東北線、東横線、市営地下鉄線 桜木町駅下車

（動く歩道からランドマークプラザ、クイーンズモール経由で徒歩約12分）

主 催：申込先：オフィス小原 045-712-0066（小原 当協会員）

後 援：横浜市、アルゼンチン共和国大使館、(社)日本アルゼンチン協会など

□日本アルゼンチン修好100周年記念サッカー試合

日 時：11月23日（月祝）19：00 キックオフ

（15：00より第47回全日本サッカー選手権大会決勝戦も観戦可）

対 戰：アジア大会日本代表 対 U-21アルゼンチン代表（21才以下）

場 所：東京・国立サッカー場

入場券：	指 定 席	自 由 席	
券種：	S S S S A	A一般 A高校	A 小中
料金：	5,000円 4,000円 3,000円	2,000円	1,500円 1,000円

主 催：(財)日本サッカー協会

後 援：日本アルゼンチン修好100周年記念事業組織委員会

2002年FIFAワールドカップ日本組織委員会

問い合わせ：東京都サッカー協会 03-5273-9090

◎日本・ラテンアメリカ婦人会主催チャリティー・バザー

（1998年フェスティバル・ラティノアメリカーノ）

日 時：11月8日（日）11：30～15：00

場 所：東京全日空ホテルB1鳳（第1会場）、瑞雲（第2会場）

入場券：2,000円 抽選券付（抽選開始時刻13：30）

賞 品：海外旅行航空券、ワイン、コーヒー、レストラン・ディナー券等多数

交 通：銀座線、南北線、溜池山王駅下車 13番出口より徒歩2分

連絡先：0467-87-2578（八戸）、045-584-7778（早川）

◎「清水百合 TANGO AND ラテン サルサ ナイト」

日 時：12月2日（水）18：00～22：00（ステージ19：00から2回）

志賀清のバンド演奏で「清水百合とTANGO C」の歌と踊りのステージ。

お客様のダンス・タイムと食事が楽しめる。

会 場：吉祥寺STAR PINE'S CAFE（近鉄デパートの近く）
入場料：3,300円【□ 3,000円+1ドリンク】
交 通：JR、井の頭線、吉祥寺駅下車 徒歩4分
問い合わせ：HYG企画 03-3408-8779（清水百合 当協会員）

(註：□印は日本アルゼンチン修好100周年記念事業)

お 知 ら せ

□早稲田大学オープンカレッジの「アルゼンチン総合講座」の日程変更

前号でお知らせしましたように、土曜日の13:00～14:30、早稲田大学エクステンションセンターで開催されている「アルゼンチン総合講座」(15号館1階101教室)のスケジュールに一部変更がございましたのでお知らせ致します。

なお、当協会員の受講は「無料招待」で、すでに50人が参加しており好評をえておりますので、ご希望の方は前号で詳細をご参照のうえ、当協会へお申し込み出来ます。

第6回 日程・10月24日（土）、講師・F. ラス（経済担当参事官）、テーマ「日本とアルゼンチンとの貿易・投資」

第7回 11月7日（土）、講師・マルタ松下（同志社大学教授）、「赤ワインの秘密と生活文化」

第8回 11月14日（土）、講師・畠恵子（早稲田大学教授）、「アルゼンチンの女性史」

第9回 11月21日（土）、講師・野谷文昭（立教大学教授）、「アルゼンチンの文学」

第10回 11月28日（土）、講師・斎木茂治（日ア修好100周年記念事業組織委員会事務局長）、「食料危機とアルゼンチン」

第11回 12月6日（土）、講師・帆足まり子（日本ラテンアメリカ文化交流協会会长）、「folkloreとタンゴーアルゼンチンの愛と魂」

（修了式は12月5日（土）15:00より修了証授与（有資格者のみ）、ピアノ・ミニコンサート、パーティを予定。）

□アルゼンチン経済・投資セミナー

日 時：12月3日（木）09:30～12:15

会 場：大手町 日経ホール

スピーカー（予定）：メネム大統領、ディテーラ外相、フェルナンデス

経済相、アルチョウロン大来財団会長、高村外相、
河合財團國際開発センター会長等

共 催：アルゼンチン共和国大使館、日ア修好 100 周年記念事業組織委員会、
米州開発銀行駐日事務所、JETRO、日本・東京商工会議所、日亞經濟委
員会、大来財団

□日ア修好 100 周年記念切手の発売

12月2日（水）全国の郵便局で80円（予定）の記念切手が発売される。

□新刊書のご案内

1 「アルゼンチン観戦武官の記録」邦訳発売へ

〈9月16日付日本經濟紙文化欄「日本海海戦、中立国も敬礼」ご参照〉

（既報）幻の名レポートといわれる日本海海戦の観戦記がついに世に出る。アルゼンチン海軍のM.ドメック・ガルシア大佐（当時）の邦訳本が、90年ぶりにきたる10月21日に発売されることになった。

観戦記のオリジナルは、全5巻1,400ページにおよぶ膨大なもの。そのうちの主要部分が訳出され出版される。

1905（明治38）5月、日本帝国海軍が、当時世界一を誇るロシヤ帝国のバルチック艦隊をパーフェクトゲームのように完全勝利をおさめた。それに至る周到な準備、海戦詳報など詳細なデータ、具体例が、客観的に記録されている。

このたびの出版には、アルゼンチン海軍省、サンチス大使、フラギオ元大使、海軍歴史資料館、博物館、水交社、わが国の海上自衛隊、五味元海将、津島元海佐（訳者、当協会員）、㈱イデア・インスティチュート社の並々ならぬ協力のもとに長年の夢が実現した。

「日進」に乗艦したガルシア大佐の冷徹な視点からの観察、調査、分析は、単に戦史の研究にとどまらず、新興国日本の若者たちが、如何にして国難に立ち向かい、司令官から水兵に至るまで、燃えるような憂國のエネルギーを發揮していくかを検証する貴重な資料だ。

第三者の観察をとおして、日本海海戦はハード面でも勝利への合理的な努力と準備にあったことが判かる。それにもまして、東郷司令長官の、連合艦隊への卓越した戦略的マネージメントを、ライバル、ロジェストウエンスキー中将のそれとの比較において喝破している点は、驚きを越え、感動さえ覚える。いまの日本の官民の上層部、経営者に読んでいただきたい。そして近代日本形式の原点を再認識し、初心を想起して欲しい。司馬遼太郎さんが生前に指摘していた史実が随所によみがえってくる。

10月21～25日、池袋サンシャインビル7Fで開催予定の「アルゼンチン・フィエスタ」に初版本（A5版、316頁）発売の特別ブースが出される。

出版：(株)イデア・インスティテュート（当協会員）

価格：2,500円（税、送料別）（当協会員は特別価格1,800円（税込、送料別、申し込みはFAX又ははがきで当協へ））

2 「アルゼンチンと日本—友好関係史」サンチス・ムニョス 駐日大使著（和訳文、A5版、本文280頁）

日ア両国修好100周年記念として刊行され、両国間交流の歴史がつづられており、10月下旬発行（日本貿易振興会—JETRO）予定。

定価：2,520円（本体価格 2,400円）

入手方法：(1)ジェトロ・ライブラリー（港区虎ノ門2-2-5共同通信会館6F）
で販売（09:00～16:30、土日祝、第3火曜日定休）

(2)東京官書普及(株)通信販売課を通じて通信販売。

TEL 03-3292-3701、FAX 03-3292-1670

◎「洋上で、タンゴを踊り明かそう！」

にっぽん丸「ウーゴ・パガーノ・タンゴのタベ」サンタクルーズ東京

日 時：12月16日（水）17:00晴海港発～17日（木）14:00帰港

ステートルームB（3名使用）お一人様42,000円より

12月21日（月）19:00晴海港発～22日（火）08:00帰港

ステートルームB（3名使用）お一人様36,000円より

12月22日（火）19:00晴海港発～23日（水・祝）14:00帰港

ステートルームB（3名使用）お一人様42,000円より

※上記料金には、バンドネオン奏者「ウーゴ・パガーノ」タンゴ楽団演奏、全食事代（カクテルパーティ、フルコースディナー）ダンス、ゲーム等イベント参加費用、消費税込み、当協会員3,000円引き

申込み：商船三井客船(株) クルーズデスク TEL 0120-791-211

◎アルゼンチンタンゴの魅力を訪ねる旅（1999年）

日 程：

2月7日（日）成田発	13日（土）ブエノスアイレス発
8日（月）リオデジャネイロ着	14日（日）ロサンゼルス着
10日（水）同発、イグアス着	15日（月）同発
11日（木）同発、ブエノスアイレス着	16日（火）成田着

費 用：お一人様 ￥565,000円（当協会員 ￥545,000円）

連絡先：国際文化交流協会 03-3726-4950（原田直二 当協会員）

取り扱い：JTB 海外旅行虎ノ門第一支店（当協会員） 03-3504-3706

（担当：野村、若月、大槻）

（註：□印は日本アルゼンチン修好100周年記念事業）

人 事 往 来

1. 来 日

東江ロベルト らぶらた報知新聞社長 10月2日～15日
(海外日系新聞協会創立25周年記念式典)

山 田 宗 吾 山田商工㈱社長 10月4日～26日
(平成10年度海外協力貢献者表彰の受賞)

2. 訪 ア

秋篠宮殿下、同妃殿下 9月25日～10月8日（日ア修好100周年記念式典）
諸 橋 晋 六 日ア修好100周年記念事業組織委員会委員長兼
日亞経済委員会会長他30余人 9月27日～30日
(同上式典及び第19回日亞経済合同委員会)

野 村 秀 治 当協会専務理事 9月26日～10月2日
(同 上)

3. 外務省人事異動（就任日付）

阿 部 知 之 中南米局長（前 シカゴ総領事） 9月1日
坂 場 三 男 中南米局外務参事官（前 エジプト公使） 8月1日

あ と が き

特別記事：「いま、なぜアルゼンチンか」は休ませていただきます。

次号（23号）は新年1月中旬発行予定です。会員各位の投稿、ご意見をお待ちしています。